

隨泉寺寺報

平成 24 年 (2012 年) 8 月号 第 504 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

お盆会法要

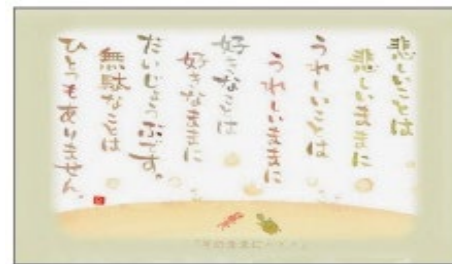
講師 住職 自修

講題 『お盆をむかえて』

■ 悲しいことは 悲しいままに
うれしいことは うれしいままに
好きなことは 好きなままに
だいじょうぶです。

無 なことはひとつもありません

澤田直美



7 月に入って熊本や大分は集中豪雨で大変な被害が出ています。テレビで放送される被害の状況を見ると 19 年前の隨泉寺の裏山が崩れたときを思い出します。

今年もお盆がやってきました。初盆を迎えられる方、ふるさとに帰られる方、遊びに行かれる方、仕事の方、それぞれあると思います。去年のお盆はあであった、こうだったと思い出しますが、いつかは自分が初盆の人として懐かしまれるときが来ます。1 年に一度くらいは、亡くなられた方を思い出し、ご恩を偲ぶ、そんな時間を持ってもらいたいと思います。

8 月の予定

- 8 月 2 日午後 6 時より 門信徒会本部役員会
- 8 月 12 日 (日) 掃除 平原西
- 8 月 12 日 (日) 午後 1 時半より 庫裏増改築事業起工式
- 8 月 16 日朝席午前 10 時より お盆会法座
- 8 月 16 日昼席午後 1 時半より 初盆追悼法要
- 9 月 2 日午後 6 時より 門信徒会本部役員会

☆平成 24 年初盆を迎えられる方

俗名	法名	命日	行年	地区
白幡 康子	釋廣慧	平成 23 年 8 月 2 日	66 才	平原西
高橋 哲司	釋勇哲	平成 23 年 8 月 5 日	76 才	井原
和田 栄	釋德行	平成 23 年 8 月 13 日	92 才	平原西
中村 昭義	釋実徳	平成 23 年 9 月 15 日	78 才	宮原
佐々木光子	釋慈恵	平成 23 年 10 月 1 日	85 才	荒野
秋田 正信	釋正真	平成 23 年 10 月 13 日	99 才	他所
今田 勝三	釋勝真	平成 23 年 10 月 18 日	62 才	みどり坂
渡辺 昶	釋昶浄	平成 23 年 10 月 18 日	93 才	他所
有谷 久夫	釋久	平成 23 年 10 月 22 日	73 才	平原上第 1
藤野 英則	釋監英	平成 23 年 11 月 5 日	70 才	他所
栗原 廣	釋浄廣	平成 23 年 11 月 28 日	94 才	中須賀
中垣 ミチエ	釋証道	平成 23 年 12 月 10 日	97 才	長者原東
山村 富士子	釋明照	平成 24 年 1 月 10 日	75 才	中須賀
植木 岩夫	正覚院釋勝英	平成 24 年 1 月 11 日	102 才	荒野
上野 憲昭	釋浄憲	平成 24 年 1 月 16 日	92 才	瀬野川団地
畑中 幸子	釋信称	平成 24 年 1 月 20 日	83 才	コモンライフ
栗田 君雄	釋清雄	平成 24 年 1 月 29 日	86 才	井原
前座 光子	釋尼蓮楽	平成 24 年 2 月 13 日	90 才	平原上第 1
河内 カツミ	釋尼美幸	平成 24 年 2 月 15 日	97 才	平原上第 1
江司 勝江	釋勝希	平成 24 年 2 月 19 日	72 才	他所
菅 寿徳	釋徹照	平成 24 年 3 月 7 日	82 才	荒野
土本 澄子	澄明院釋慧妙	平成 24 年 3 月 9 日	87 才	桑原
坪田 ツ子コ	釋尼慈昌	平成 24 年 3 月 23 日	98 才	井原
鈴木 郁子	釋清郁	平成 24 年 4 月 3 日	83 才	他所
平原 秀子	釋清秀	平成 24 年 4 月 6 日	89 才	他所
上本 五月	釋頭信	平成 24 年 4 月 8 日	87 才	井原
加藤 義春	釋義順	平成 24 年 4 月 17 日	64 才	荒野
植松 憲枝	釋憲清	平成 24 年 5 月 7 日	45 才	鴨の巣
柳田 マサノ	釋正命	平成 24 年 5 月 28 日	90 才	他所
原田 尚幸	釋尚専	平成 24 年 7 月 8 日	71 才	平原東
小田 ヨシ子	釋尼華浄	平成 24 年 7 月 10 日	90 才	荒野
佐々木和子	釋明知	平成 24 年 7 月 15 日	78 才	荒野
重田 貞子	釋貞真	平成 24 年 7 月 18 日	92 才	コモンライフ
佐々木正信	釋正真	平成 24 年 7 月 19 日	92 才	荒野
所 智海	釋誓智	平成 24 年 7 月 21 日	30 才	荒野

※ 初盆追悼法要

去年 (平成 23 年 8 月 1 日) から今年 (平成 24 年 7 月 31 日) までにお浄土に還られた方々です。いずれも懐かしい方々です。初盆追悼法要を勤めます。誘い合わせてお参りください。8 月 16 日午後 1 時 30 分よりお勤め

☆庫裏増改築事業起工式

8 月 12 日 (日) 午後 1 時半より庫裏増改築起工式を行います。皆さんご参加ください。永代経懇志 金 拾萬円 佐々木正信殿 故 佐々木 光子様 特 永代経志として

8月

喜びの見える目 尊いものを見 ぐ目 仏さまの目 1

私は、昨晚、私のところに集まってくれた村の婦人の皆さんに、「おたふくの」の話をしました。私も、人から聞いて知ったくらいのことですが、あれは、昔の婦人の皆さんが念願した「五徳の美人」の顔なのだそうです。

「五徳」とは何か。第一は「目」、憎しみの目ではなくて、慈愛の目、喜びの見える目、たとい表は醜く汚れていても、そのもうひとつ底にある尊いものを見 ぐ、深い目、とらわれのない澄んだ目、それが第一の徳だそうです。この目は、仏さまの眼に じます。

第二は耳。生きとし生けるものの声なき声も聞きとることのできる耳。ことばにならないことばをも、聞きとることのできる耳これが第二の徳だそうです。そういわれてみると、ずいぶん大きい豊かな耳になっています。これも、仏さまの耳に じます。



第三は頬。豊かな頬、ふくよかな頬です。愚かな子も、賢い子も、いうことをきかないやんちゃな子も、みんな包みこんでくれる頬。トランクのように、外から見たところは小ざれいでさっぱりしているが、相手の形よりも、自分の形を優先するのでなく、ふくろのように、相手の形に応じてはたらく「おふくろ」の名がふさわしい頬。

「トランクママ」ではない「ふっくら母さん」。私は、かつて、教員をしていた頃、受け持っていた二年生の子どもたちに、お母さんの顔をかいてもらったことがありました。そのお母さん方のなかには、ほっそりとやせたお母さんも幾人かおられたのに、子どもの絵の中のお母さんは、みんな、ふっくらと、丸顔ばかりであったことに感動したことを思い出します。この「頬」も「凡・聖・逆・誇」すべてを摂取してくださる仏さまのお心に じます。

第四は、口。相手をやっつけるとがった口ではありません。皮肉をいうゆがんだ口ではありません。へつらいの口でもありません。喜びのことばが、おのずからほころび出てくる口です。優しい口です。これも、仏さまのお目に じます。

第五は、それらすべてのまんなかにある鼻です。高慢の鼻ではありません。自己中心の鼻ではありません。謙虚な、慎しみの鼻です。それが、すべての中心にあるということにも、何か、意味がありそうに思われます。

これは、「和顔悦色施」の「顔」のモデルのように思われます。眼鏡屋さんの鏡にうつった、ゾッとするような私の顔とは、真反対の極にあるのが、この顔ではないかと思われます。

後、幾日いのちがいただけるかわからない私です。日、既に暮れ、道、いよいよ遠しの感もいたしますが、はずかしい自分の顔だけは、忘れないように、旅の終わりを歩ませていただきたいと思います

☆随泉寺庫裏増改築事業

増改築事業の契約が行われいよいよ工事が始まりました。

入札は6月11日に正田建設、広成建設、金剛組、奥島建設、舛野工務店の5社の入札となり、結、奥島建設が8,463万円で請け負われました。7月2日に随泉寺で契約致しました。早速倉庫の解体があるので、7月5日に雨の中を役員さんに手伝ってもらい、倉庫の中の什物や食器などを庫裏に移してもらい、工事が始まりました。現在は客殿建設用地の造成工事が始まっています。予定では8月のお盆頃までに造成工事を終えて、10月いっぱい客殿の竣工、12月中に新しい庫裏の新築、来年の3月中に今までの庫裏の改築の予定です。

その工事に伴って、本堂での御法座は

8月16日午前10時よりお盆法座、午後1時半より初盆追悼法要、9月は9月15日午前10時より主婦の集い、午後1時より秋季彼岸法座、10月は10月15日午前10時より若い婦人の集い、午後1時より秋季永代経法要、その後は11月の秋季門信徒講座、12月の報恩講法要、1月の御正忌報恩講はお休みにします。2月の仏教婦人会主催の仏婦講座は3月の春季彼岸法要と併修にさせてもらおうと思っています。

☆本堂裏の大木

本堂の裏山におそらく椎の木と思われる大木がありました。むかしは2本ありましたが、20年ぐらい前に、雷が落ちて、半分枯れていました。残った1本がずいぶん大きくて、台風が来ると、本堂の屋根に倒れてくるのではないかと、心配していました。竹やぶを伐採してもらったら、ずいぶん日当たりはよくなって、風しもよくなり、すっきりしましたが、今度は余計にその大きな椎の大木が本堂に倒れてくるのではないかと頭を悩ましていました。

客殿の工事で大きな重機が入ったので、伐採ができるのは今しかないと思い、伐ってもらうことにしました。切り株を見ると年輪が100年近くありました。

この木は本堂と一緒に生きてきたのだと思い、切ない気持ちです。御門徒の皆さんのお参りされる姿をじっと見てこられたのでしょうか。おじいちゃんも、おばあちゃんも、おとうさんも、おかあさんも・・・。

